

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.72 平成26年6月号 福岡アジア都市研究所は、福岡市を中心に産学官が協力して設立した研究機関です

目次

- ◆はじめに—バングラデシュ工科大学総長がURCを訪問されました！！—事務局長 梶原信一・・・ 1
- ◆「福岡大学ベンチャービジネスセミナー2014」参加報告 事務局長 梶原信一・・・ 2
- ◆URC資料室ニュース・・・ 2

- ◆URCニュース 2014年度「アジア都市景観賞」の募集を開始しました。・・・ 3
- 平成26年度第2回都市セミナー開催予告・・・ 3
- ◆今月のおすすめ・・・ 3
- ◆マスコミでみるURCの今・・・ 4
- ◆資料速報 平成26年5～6月受入分・・・ 別添

はじめに

バングラデシュ工科大学総長がURCを訪問されました！！

事務局長 梶原信一

九州大学とのMOU(覚書)締結のため来福したバングラディッシュ工科大学のイズラム総長、6月11日午前中に当研究所に訪問されました。(イズラム総長は、肩書名称上副総長で、総長は大統領になります。しかし、実際の大学の運営は副学長がトップとして管理していますので、その実態を踏まえ総長と表記しています。なお、バングラディッシュでは国立、私立含めて総長は全て大統領になるということです。)

バングラディッシュ工科大学は、同国だけでなくインドやマレーシアなどの国からも学生を受け入れており、周辺地域の中でトップクラスの工学系の大学です。卒業生は欧米をはじめ国外企業の就職が80%を占めるということでした。

今回は総長に随行して来福したアケルザマン氏が、九州大学の元留学生で、平成20年の当研究所の若手研究者研究活動奨励事業の対象者であったご縁で立ち寄られました。当日は、理事長が出張中であったため、副理事長以下の職員でお迎えしました。

イズラム総長とのしばしの歓談の後、総長に随行したアケルザマン氏から首都ダッカ市の現状について40分ほどの説明を受けました。ダッカの中核的な市区域は145平方キロメートルと福岡市の341平方キロメートルの半分以下の面積ですが、そこに800万人が住む(データは少し古いようですが)、大変人口密度が高い都市で、市街地、郊外にスラムが点在している状況です。1971年の同国独立以降、急速にダッカへの人口集中が起こり、いまも都市の拡大がスプロール的に進んでいるようです。貧しい地域から、仕事を求めて人口が都市部に流れてきますが、都市部でも十分な仕事がないことから、毎日の生活に追われる人々が非常に多いとのこと。国連をはじめいろいろな改善プロジェクトも実施されています。しかし、アケルザマン氏の話では、時限的な改善プロジェクトは、検討・計画だけで時間がかかり、改善事業の実施期間は相対的に短期間になることや、対象地域が市内各地に散在しているスラムに対して



地区一部分だけ改善策を実施するようなやり方であるため、十分な効果を生み出していないということでした。同氏はダッカ市の居住環境改善のためには、これまでのような不十分なバラマキ的な改善方法ではなく、事業実施のスパンが長くとれるような実践的な方法で、特定のスラム地域に集中的に改善プロジェクトを実施し、一つ一つ地域の改善を図っていく方法でなければ実効性がないと強く主張されました。

また、アケルザマン氏は、ミドリ虫の活用で有名な日本のベンチャー企業(株)ユージェナのバングラディッシュ事務所長を務めており、スラム地区で同社の製品(製菓)を無償で提供する社会貢献活動も行っているそうです。

最後に感想ですが、バングラディッシュは、現在、まだ発展途上段階で、インフラ等の整備もかなり遅れており、また、都市部の人口も増加の一途で、都市計画や都市開発のコントロールも十分機能していないようです。しかし、一方で製造業を中心に多国籍企業の進出も進んできており、今後、アケルザマン氏のように国や地域の発展のために真剣に取り組む人の活動により社会システムの改善が少し筒でも進んでくれば、大変豊かな社会を築くことができる大きなポテンシャルを持っている国ではないかと感じました。

「福岡大学ベンチャービジネスセミナー 2014」 参加報告 事務局長 梶原信一

5月31日に「福岡大学ベンチャービジネスセミナー2014」が開催されたので、参加してきました。セミナーは、サンブリッジ創設者・会長CEOであるアレン・マイナー氏が基調講演を行い、引き続き福岡大学経済学部教授の阿比留先生が学生とともに取り組んでいる「BreakThroughプロジェクト」の2014決起プレゼンテーションが行われるという構成です。

基調講演をしたアレン・マイナー氏は、日本オラクルの初代代表で、その後、ベンチャーキャピタリストとして独立し、現在も自身が創設した会社を通じて様々な日本のスタートアップの支援を行っています。また、九州大学のアントレプレナー教育の場であるQRECの外部アドバイザー会議委員も務めています。講演テーマは、「日本にとってグローバル人材ってなんだろう?」というものでした。講演のはじめの部分で、スタートアップについての話がありましたが、その中で日本はスタートアップを生み出す土壌として「砂漠」という表現をされていました。実際、日本の起業に関する多くの指標は、世界の主要国の中で最下位層にあります。また、投資家がスタートアップに対して投資するかどうかの判断要素は、「情熱」、「信頼性」、「経験」を挙げていました。このうち日本人にとって特に不足しているのは、「情熱」の部分なのかなという感じがします。しかし、いい会社に就職することが成功モデルの社会システムで、起業に失敗した場合の社会的リスクも大きい現実の中、自分で起業して社会に貢献するという強い気持ち、つまり「情熱」を持ち続ける部分をどう育成していくのかは大変難しい問題です。

次の「BreakThroughプロジェクト」は、私ども研究所の昨年度総合研究である「スタートアップ都市」形成に向けた政策課題に関する研究において、アドバイザーとしてお世話になりました福大の阿比留先生の取組です。希望する学生が企業に入って、実際のビジネスの中で課題の



発見や解決に取り組むなど実践的な活動を行うものです。長期的なインターンシップともいえるもので、企業側の理解と学生側の熱意の両方がないと成立しないものです。社会経験が非常に少ない学生に突然起業への取組みを教えることよりも、まずは実際のビジネス現場において、失敗も含めて社会経験を積む実践的な教育を主眼にしたものといえます。先生の冒頭のあいさつの中でも、このプロジェクトでは「詰め込む教育でなく、自分の中にあるものを出していく教育」を目指しているというような趣旨のことを話されていましたが、学生が今の自分に何ができるかを考えさせるきっかけになると思います。

このセミナーを聞いて、改めて「人材」や、チャレンジする人を評価するのはもちろん、失敗しても「再チャレンジができる環境づくり」が重要なことを強く認識した次第です。そして、福岡市の「創業特区」における様々な規制緩和や取組が、アレン・マイナー氏が指摘したスタートアップにとって「砂漠」の環境を、緑豊かな「エコシステム」が実現した環境へ変化させていくことを大いに期待しています。

URC資料室ニュース 平成26年度第1回ミニセミナーを開催しました!

平成26年5月14日水曜日18時半から20時まで天神ツインビル4階職員研修センター405研修室にて本年度第1回目のミニセミナー「福岡・天神時間旅行-KBC九州朝日放送創立60周年記念映像作品」の上映会を開催いたしました。

当初、当研究所の会議室で開催する予定だったのですが、お申込み多数のため会場を変更することにいたしました。おかげさまでミニセミナー史上最多のお客様をお迎えすることができ、関係者一同、心から御礼申し上げます。

上映前後は、作品に特別協力された益田啓一郎さんに解説や質疑に回答いただき、閉会後は映像本編に多数使用された写真や絵はがき等の生のコレクションを見せていただくことができ、残られた方は映画の余韻を楽しまれているようでした。



URCニュース

2014年度「アジア都市景観賞」の募集を開始しました。

「アジア都市景観賞」は、アジアの人々にとって幸せな生活環境を築いていくことを目標に、「国連ハビタット福岡本部」、「アジアハビタット協会」、「福岡アジア都市研究所」、「アジア景観デザイン学会」の4団体の共催によって2010年に創設された景観に関する国際賞です。

第5回目の節目に当たる今年は、「未来へ幸せをつなぐ景観」をテーマに、環境共生型の持続可能な社会を目指し、心豊かな質の高い都市空間を創出している案件を募集・選考・表彰する予定です。

主な予定＜募集期間：2014年5月下旬～7月31日＞

＜予備選考：2014年8月上旬＞

＜合同審査会：2014年10月8日＞

＜授賞式：2014年11月18日＞

(夏井圭介主任研究員)



昨年の授賞式の様子

平成26年度 第2回都市セミナー

アジア情勢報告会「世界の都市政策とアジアの視点」を開催します。

平成26年7月30日水曜日の13時30分から15時まで(受付開始13時から)アクロス福岡 会議室608にて開催します。

今回の報告会では世界の都市政策の動向に着目し、当研究所の顧問であり、前国連ハビタットアジア太平洋本部長の野田順康(としやす)氏が最新の状況を紹介するとともに、アジアの視点から都市政策について報告し、今後の福岡市のまちづくりや福岡市と世界の都市とのビジネス交流・協力の可能性について探ります。

皆様のご参加をお待ちしております。

定員100名で、ご参加は無料です。申込多数の場合は、先着順とさせていただきます。申込締切は、7月28日月曜日です。

お申し込み方法は、住所・氏名・電話番号をお書きの上、電話、FAXまたはE-mailで下記までお申し込み下さい。なお、福岡アジア都市研究所のホームページ(<http://www.urc.or.jp/>)からも申し込みが可能です。

Tel : 092-733-5686 Fax : 092-733-5680 E-mail : event1@urc.or.jp 担当 : 中村、夏井 (中村由美研究員)

写真説明 : 本人撮影 第二回国連専門家会合(都市・地域計画)2014年4月10日コロンビア・メデリンにて

(第三回会合は11月10日から12日の2日間、福岡市で開催予定)



今月のおすすめ 「Fukuoka Growth 2013-2014ー福岡の成長ポテンシャルー」

福岡アジア都市研究所 情報戦略室 平成26年3月発行

昨年度、当研究所ホームページにて定期公開しておりました「Fukuoka Growthー福岡の成長ポテンシャルー」(情報戦略室発行)を編集、再構成し、一冊にまとめました。

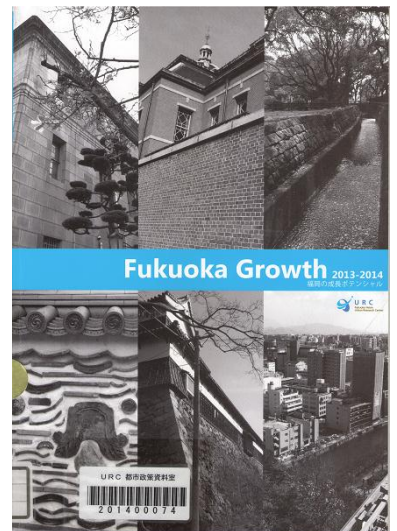
さまざまな統計データなどをもとに、もっと福岡市を知るためのデータブックとしてはもちろん、域外の人に福岡市の成長力や将来性をPRするツールとして、活用いただけると幸いです。

ウェブ上では英語版も別に公開していましたが、冊子では、各ページとも日本語と英語を併記する構成になっています。海外の方と、同じ話題で意見交換することが可能で、会話が広がり、コミュニケーションを深めることに役立つことでしょう。持ち歩きにちょうどよいサイズ(B5版)となっておりますので、海外へ持参して、福岡市をわかりやすく紹介することも可能です。

既に賛助会員のみなさまなどには送付させていただいておりますが、当資料室にも置いてありますので、ご興味のある方はお気軽にお立ち寄りください。

※ご好評につき、ただいま急遽増刷中です。ご希望の方はもう少々お待ちください。

(情報戦略室 島山尚久研究主査)



◆マスコミで見る「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞（記事は資料室で読めます。）

(2014/6/11 日本経済新聞 地方版 朝刊 41p)

アビスパ復活への助走（上）人でつなぐ攻めの改革—野見山体制、背水の陣。福岡地域戦略推進協議会フェロー石丸修平さんが経営諮問委員会の委員長を務める。

(2014/6/9 西日本新聞 夕刊 3p)

九州近代歌謡遺聞 206 博多ロック編 若者の街、福岡
当研究所OG佐々木喜美代さんが「1976年大転換設」を唱える。

(2014/6/6 西日本新聞 朝刊 26p)

千年のまち 博多 私の視点2 分断の道 修復喜ぶ 地域全体 青写真作りを
市民研究員OG池田節子さんが御供所まちづくり協議会副会長として語る。

(2014/6/5 西日本新聞 朝刊 28p)

九州経済 タイのビジネスセミナー 13日13時半からの本年度第1回の都市セミナーの開催予告

(2014/6/4 西日本新聞 朝刊 28p)

地熱と海洋と水素重点に産業化方針 九州地域戦略会議
安浦寛人理事長が九州での再生可能エネルギーなどの産業化を検討する委員会の委員長を務める。

(2014/5/24 西日本新聞 朝刊 26p)

台湾出身の起業家 九大OBらと懇談 起業論テーマ
当研究所で開催されたロバート・ファン氏との意見交換会 開催報告

(2014/5/24 西日本新聞 朝刊 30p)

九州・アジア経営塾 新塾長に橋田氏 橋田紘一会長が九州・アジア経営塾 新塾長に就任

(2014/5/23 東奥日報 朝刊 19p)

十和田/アートで魅力発信を 観光関係者が会議 秋の奥入瀬 誘客へ案続々
市民研究員OB藤浩志さんが十和田市現代美術館館長として発言

(2014/5/17 西日本新聞 朝刊 29p)

「野武士軍団」の逸話を本に「伝説の西鉄ライオンズ」福岡市の益田さん 選手の未公開写真も
平成26年度第1回ミニセミナーのコメンテーター、益田啓一郎さんが本を発行、紹介される。

(2014/5/12 西日本新聞 朝刊 21p)

九経連会長も講演 地域政策講座開講 福岡市
開校式で安浦寛人理事長が同講座実行委員会委員長としてコメント

◎雑誌

(2014/5/31 フォーラム福岡 2014 May Vol.55)

24~25p 対内投資でカネを呼び込み、ヒトやビジネスの集積を図る—福岡市における対内直接投資と域外投資の現状
について畠山尚久研究主査がコメント

45p ヒトやビジネス、カネを呼び込み、福岡の持続的な発展へ—新たなイノベーションを福岡で生み出す
イノベーションスタジオ福岡について安川浩平研究主査が説明

48~49p The eye from outside 福岡地域戦略推進協議会ディレクター石丸修平さんが語る
《生活の質の高さ》が魅力的な福岡は、創業や新たな挑戦がしやすい都市だ

50~51p The eye from outside Local Knowledge Platform LLC CEO 天野宏欣さんが語る
成熟期を迎えた日本の自治体の取り組みは、アジアの国々にとって、価値ある“コンテンツ”になる
当研究所OBで現在フェローの天野宏欣さんが語る。

(2014/5/19 日経グローバル No.244 8~9p)

日本のMICE 開催シェア低下 官民連携、人材育成など課題/日本政府観光局 コンベンション誘致部次長川崎悦子
氏 自治体などの誘致活動について福岡地域戦略推進協議会のMICE関連の動きが紹介される。

編集後記: 今回のバン格拉デシュ工科大学総長のご来所は、同行したアカルザマン氏が柳研究員と同期の若手研究者研究活動奨励事業の対象者だったことがきっかけです。当時の研究テーマは「バン格拉デシュの屋台問題」でしたが、内容をさらに深め、「スラム問題」をテーマに九州大学出口敦（現在東大教授）研究室で博士号を取られました。（崎）